

## 平成 28 年 長野県諏訪二葉 高校同窓会長野支部 参加報告

諏訪から普通列車で約 2 時間。長野県の大きさを改めて実感しながら降りた長野駅では、雨上がりのしっとりした空気がやさしく漂っていました。

6 月 25 日土曜日、長野県諏訪二葉高校同窓会長野支部にお招きをいただき、小池良彦学校長、竹花光子会長、桜田智子副会長、小林佐江副会長の 3 名で参加させていただきました。会場は長野市郊外の静かな坂を上り切った頂上「雲上閣～美山亭～」。その名の通り、長野市街を一望できる美しいウィンドビューが私たちを出迎えてくれました。

恒例の校歌斉唱では、長野支部参加の方々 11 名と共に、1 番から 5 番まで全てを歌いきりました。歌い終わった後、2・3・4 番の歌詞を改めて見直し、一語ずつに込められた意味や歴史を語り合う一時が総会の始まりとなりました。

支部長さんのご挨拶では、出席してくださった先輩の方々や同胞への感謝の言葉に続き、総会を 2 年ぶりに開けた喜びと共に、継続の難しい実情も丁寧に語っていただきました。平成 26 年度 27 年度の会計報告からも繰越金の目減り傾向が見え、どの支部でも話題となる支部継続の困難さは、本部共々最大のそして第一の優先課題です。しかし、止むを得ず出席できなかった高女の方の長野支部設立と意義を綴ったお手紙や温かいメッセージの数々を紹介していただき、改めて、継続への意欲を確認した会場でした。

来賓挨拶として、小池校長から、学校評価アンケートの結果と新聞記事の資料をもとに卒業生の動向や、地域で高く評価されている在校生の活動が語られました。資料を隈なく読み聞き入っている会場の皆様から、二葉生の歩みに対する絶えない愛情を感じました。竹花会長は 254 名という長野市の二葉同窓生数を確認し、総会開催への感謝と共に継続することへの大切さを確認いたしました。そして、4 月から 3 か月間の本部活動紹介をしました。HP リニューアル、110 周年実行委員会立ち上げ、伴う 10 年誌計画、歴代会長会諮問委員会参加、ロビーコンサート計画、会員名簿の事後整理等、一つ一つ領きながら熱心に聞いてくださる皆様の真摯なご様子に、本部一同大きな激励をいただきました。

その後、出席なさった長野支部の方々から二葉同窓会長野支部との関連についてお話を伺いました。そのきっかけは当時の部活先輩後輩の関係であったり、お子さんの高校生活に対する感想であったり、子育てが一段落したりと様々でしたが、二葉に対する郷愁や深い思いは共通していました。支部の状況に続き、当時の教諭の思い出や北部と南部の文化や現在の生活について等々、様々に語り合い、あっという間に「白き翼」の斉唱タイムとなりました。

県庁、善光寺を抱く長野市、長野県の歴史を代表する一都市の中で諏訪二葉高校同窓会長野支部を是非継続して欲しいと願いを新たにしつつ、帰途につきました。(記録 小林佐江)